

月1日に発足。

医療・社会福祉情勢がますます厳しくなる現状において、医療機関、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、社会福祉施設等医療・社会福祉に関わるスタッフが職種や立場の垣根を越え、役割分担をしながら、ネットワークを構築すると共に、病气や終末期になっても安心して在宅で過ごせる環境を整え、そのことを地域住民に伝えていく必要性があるとして同研究会は設立されています。

定例会は3カ月に1度開催することとしており、1回目の定例会には約150人が参加、職種も幅広く、関心の高さを伺わせる開催となりました。

開催形式も多彩で、2回目はシンポジウム形式で、在宅医療の現状について現場の医師や訪問看護

師が現状報告。問題点や将来の展望を話し合いました。

4回目の開催となった8月30日は、光銭裕二光銭歯科医院院長が口腔ケアをテーマにミニレクチャー。さらに、がん患者のプロセス毎に移りゆく心理状況をテーマに、多職種の混合グループを作り、グループワークを行いました。同会の発足は普段協働することのないスタッフ同士が顔を合わせ、話し合うことのできる場でもあり、参加者の大きなメリットとなっています。グループワークはさらに一歩踏み込んだ話し合いを行う場となり、非常に有意義な定例会となりました。

なお同会研究ではホームページも立ち上げています。http://www.oshima-tp.or.jp/zaitaku/

道南在宅ケア研究会、様々な関連職種が垣根を越えて交流深める



福徳会長

道南地区における在宅医療の推進及び質の向上をめざし、医療機関や社会福祉施設の職員など様々な職種の関係者で構成する「道南在宅ケア研究会」(会長・福徳雅

章函館おしま病院院長)が8月30日に4回目の定例会を終え、順調に活動を継続しています。

同研究会は福徳院長のほか、岡田晋吾北美原クリニック理事長、木村純市立函館病院副院長、平山繁樹平山医院院長、後藤琢ごとう内科胃腸科院長、早川善郎函館五稜郭病院外科医長、さらに看護師、訪問看護ステーション所長ら11人が設立発起人となり、昨年10

研究会
の理
機能